

ROSEリポジトリいばらき（茨城大学学術情報リポジトリ）

Title	保健室での健康相談ツール紹介：コラージュ体験からの気づき
Author(s)	木嶋, 葉子; 斉藤, ふくみ
Citation	茨城大学教育実践研究, 36: 255-267
Issue Date	2017-11-30
URL	http://hdl.handle.net/10109/13376
Rights	

このリポジトリに収録されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作権者に帰属します。引用、転載、複製等される場合は、著作権法を遵守してください。

お問合せ先

茨城大学学術企画部学術情報課（図書館） 情報支援係
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/toiawase/toiawase.html>

保健室での健康相談ツール紹介

—— コラージュ体験からの気づき ——

木 嶋 葉 子*・斉 藤 ふ く み**

(2017年10月25日受理)

Introduction of The Health Consultation Tool in The Health Room

Awareness from Collage Experience

Youko KIJIMA and Fukumi SAITOU

キーワード: 養護教諭, 健康相談ツール, コラージュ

本研究は、養護教諭養成課程の学生に対し、保健室での相談活動ツールとして活用しているコラージュ作成を体験してもらうことで、自己や他者へどのような気づきをもたらされるか、どのような感想を持つか検証する。また、授業前と授業後で、気分によつた変容がみられたか、質問紙で確認をする。さらに、作成されたコラージュの内容分析と形式分析をすることで、青年期の女性の特徴を示すことを目的とする。

36 作品を分析した結果、コラージュ作品から、青年期の女子学生特有の表現方法が見られた。共に作業し、互いの作品を鑑賞することで、自己や他者への気づきや共感性をもたらす結果が見られた。さらにコラージュ制作は、健康相談ツールとして、自己や他者の理解・認知、気分の高揚的変容にも効果的であることが分かった。

I はじめに

近年の社会の変化に伴い、子どもたちの健康問題は多様化し、保健室を訪れる児童生徒は、心身ともに様々な問題を抱えている。養護教諭が保健室で行う健康相談は、救急処置の中で情緒面に配慮して行う相談的対応や、対象に応じて継続的に支援する健康相談などがある¹⁾。平成9年保健体育審議会答申²⁾では、学校におけるカウンセリング等の機能の充実により、求められる養護教諭の資質として、専門性を生かしたカウンセリングの能力をあげている。子どもが保健室を訪れたとき養護教諭は、健康観察として身体症状に関しては、体温・脈拍・血圧などの測定や触診・視診などによって症状に対する判断を行う。加えて、心身医学の面から養護教諭は可能な範囲の心身医学テストを用いる事によって子どもをより理解することができ、子どもとよりよい関係づくりのきっかけ

*稲敷市立あずま東小学校 **茨城大学教育学部

けともなる³⁾。また、児童生徒のアセスメントをする際、じっくり話しを聞くカウンセリングだけでは、児童生徒の抱えている問題が見えないこともある。特に小学校低学年や、発達障害傾向の児童などは、自分の置かれている状況を説明したり、自分の気持ちをきちんと言葉にしたりすることが苦手な場合がある。

そこで非言語アセスメントとして、心理テストや遊戯療法を活用することで、心因性の来室児童生徒への問題解決を図る手立てとしている。その一つとしてコラージュがある。コラージュとは、もともと”coller”というフランス語から由来する言葉で、「のりで貼る」という意味がある⁴⁾。

「切り抜き」という既成のイメージをそのまま用いて自己表現ができるため、絵を描くことが苦手な場合でも、比較的抵抗なく取り組む事ができる⁵⁾。さらにコラージュ制作は、自分で気付かない、あるいは気づいている不安や問題を画面という環境に映しだし、作品を創造する喜びや表現できた事への満足感、さらには達成感も得られ、子どもたちにとっては自信につながり、また自己を見つめることで自己を受容し心が安定していくと思われる⁶⁾。このように、保健室で行う健康相談ツールとして、児童生徒の援助場面で活用できるであろう「コラージュ」を、養護教諭を目指し学んでいる学生に体験してもらうことにした。

そこで本研究では、作成したコラージュから、学生のコラージュ作品の特徴を明らかにし、実際に自己や他者へどのような気づきをもたらすか、考察してみることにした。

II 対象および方法

1. 調査対象

対象は、I 大学教育学部養護教諭養成課程1年次の学生36名である。実施日は、2016年12月20日である。「養護学概論」の授業で健康相談のツールとして、バウムテスト、スクイグル、ぬりえ、自己表現ワークシート⁷⁾などを紹介し、今回はコラージュを実際に体験してもらった。

2. 準備物

白色四つ切り画用紙、質問紙、若干の広告や雑誌を用意した。はさみ、のり、雑誌、広告等は各自用意するよう事前に伝えておいた。

3. コラージュ制作

コラージュ制作は、配布から回収まで90分間で実施した。実施方法は、マガジン・ピックアップ・コラージュ法で行った。切り抜き用の雑誌はファッション誌、カタログ、フリーペーパー、新聞折り込み広告などである。

4. 分析方法

コラージュは、杉浦⁸⁾、青木ら⁹⁾を参考とし、形式分析と内容分析を行った。さらに気分変容については、質問紙による自由記述から、カテゴリー抽出をした。

Ⅲ 倫理的配慮

授業の始めに本研究の目的とプライバシーの保護、成績には関係しないこと等について口頭で説明した。質問紙を提出した時点で、研究協力の承諾を得たものとした。提出された質問紙は、プライバシーに十分配慮するとともに、研究のみに使用し、使用後は破棄した。

Ⅳ 授業について

1. 到達目標

本授業では、養護教諭に関する学習を行っている学生に対し、健康相談を行う際のツールを紹介し、その一つのコラージュを体験することにより、気分にもたらされる自身の変化に気づくことである。お互いの作品をシェアリングしながら、友人に対して気づきを与えたり、互いの気づきをやりとりしたりすることにより、児童生徒を多面的に見ることの必要性にも気付くことを主な目的としている。

本授業の到達目標は、以下の点である。

- 1) 作業をしながら話をするにより、リラックスして思いを吐き出せることを知る。
- 2) 養護教諭は、児童生徒の心身の健康問題に対し、多面的に解釈する必要があることを知る。
- 3) 養護教諭として、コラージュが健康相談ツールの一つとして、活用できることを理解する。

2. 授業構成

授業構成は、図1のとおりである。質問紙を使い、事前事後の感情の変化、感想を自由記述により調査した。感情の変化については、表情のイラストを用い、「1、元気そうな顔」、「2、にっこりしている顔」、「3、平常の顔」、「4、涙ぐんだ顔」、「5、怒ったような顔」の5つのイラストから、今の気持ちと当てはまる場所に印を付け、どんな感情であるか記述してもらった。授業の活動としては、マガジン・ピクチャー・コラージュ法を活用し、普段から親しくしている仲間同士のグループを作り、作業をしながらお互いの作品にコメントをしても良いとした。その際内面の表出であることから、否定的なコメントは控えることを注意事項として加えた。

健康相談ツールについて説明	15分
コラージュの説明・準備	5分
コラージュ作成	55分
全体シェアリング	5分
感想記入	5分
まとめ	5分

図 1

V 結果

1 学生の感情の変化

1) 授業開始時の感情について

授業を前に、質問紙へ今の感情を表現してもらった。表情に○をつけた学生は35人で、開始時の感情は「3, 平常の顔」を選んだ学生が多く、17名だった。自由記述を見ると、「普通」、「ワクワクしている」、「楽しみ」などの記載があった。「4, 涙ぐんだ顔」を選んだ学生は9名で、「モヤモヤしている」、「元気がない」など、どれもネガティブな感情の記載であった。「2, にっこりしている顔」を選び「楽しみ」という感情を記載している学生が3名だった。

2) 授業後の感情について

授業後の感情について、コラージュ作成後に再度ワークシートに記入をしてもらった。開始前後で変化なしだった学生は、3名だった。「2, にっこりしている顔」から「1, 元気そうな顔」に変化した学生は7名、「3, 平常の顔」から「2, にっこりしている顔」に変化した学生は7名、「4, 涙ぐんだ顔」から「3, 平常の顔」に変化した学生は4名だった。「3, 平常の顔」から「1, 元気そうな顔」に変化した学生は9名、「4, 涙ぐんだ顔」から「2, にっこりしている顔」に変化した学生は12名、34.3%だった。「4, 涙ぐんだ顔」から「1, 元気な顔」へ変化した学生は1名、2.9%であった。感情が1つ上昇した学生は、18名であり、全体の51.4%、2つ上昇した学生は12名であり、34.3%、3つ上昇した学生は、1名であり、2.9%だった。88.6%の学生が、授業前より授業後の感情が高揚していた。

逆に感情が消沈した学生は1名おり、「3, 平常の顔」から「4, 涙ぐんだ顔」へと変化していた。

2 コラージュ作品の形式

1) 切片数

切片数の最小値は11枚、最大値は58枚、全体の平均値は、24.1枚であった。杉浦(1994)の研究では、成人女性切片数の平均値は17.6枚となっており、比較すると上回った結果となっている。

2) 重ね貼り

全体の66.6%に重ね貼りがみられた。重ね貼り数を見ると、最小数は1枚、最大数は15枚、切片数の半数を重ね貼りしている作品もあった。特徴的な作品として、女性の全身の形に男性の顔だけを重ね貼りした作品があった。

3) 余白

余白が全くない作品はなかった。余白が多いと感じられる作品は27点あった。余白が少ないと感じられる作品は1点であり、感想でも「とてもにぎやかな作品ができあがった」と書かれていた。

4) はみだし・横転貼り

台紙からのみ出しはまったくみられなかった。横転貼りが見られた作品は8点あった。

5) 台紙方向

台紙を縦に使うか横に使うかは、自由に選択してよいと伝えた。縦に使った作品は3点あった。

6) 切り抜き方

切り抜き方については、「物の形」で切り抜いている作品が多くみられる。次いで「四角」であった。「手でちぎる」や、「創作」もあった。小さく切り抜いてちりばめるように貼り付けた物や、ハートの形に切り抜きしている作品もあった。

7) 貼り方などの表現特徴

「文字」の入っている作品は13作品みられた。「色彩」としては、全体的に明るい、暖かい印象を受ける作品が多くみられた。特に実施の時期が影響しているためか、クリスマスカラーが多くみられた。またピンクや赤などの明るいポップな色彩、緑、水色などの爽やかな色彩も多く見られた。

3 コラージュ作品の内容

1) 「人間・動物」

「女性」「男性」「子ども」「家族」「動物」に分類され、「人間・動物」は34作品に見られた。「女性」の切り抜きは28作品にあった。「男性」の切り抜きは6作品に見られた。1作品に21枚の切り抜きを貼っている作品もあった。「子ども」の切り抜きは4作品に見られた。「家族」の切り抜きは1作品だった。「動物」の切り抜きは11作品に見られた。

2) 「自然風景」

「風景」「花火」「花」「植物」「貝」に分類され、「自然風景」は13作品であった。「花」「植物」「風景」が多く、かわいらしい印象にとれる切り抜きが見られた。

3) 「乗り物」

「車」「汽車」「気球」に分類され、「乗り物」は2作品であった。

4) 「服・装飾品」

「服」「靴・スリッパ」「バック」「小物」「化粧品」「ネイル」「時計」「下着」に分類され「服・装飾」は20作品であった。「服」は12作品に見られ、1作品に11枚の切り抜きが貼られた作品もあった。「靴・スリッパ」は10作品に見られ、1作品に10枚の切り抜きが貼られている作品もあった。「バック」は5作品にみられた。「小物」は3作品、「化粧品」「ネイル」は2作品で、「ネイル」は1作品に11枚の切り抜きが貼られた作品もあった。「時計」「下着」は1作品だった。

5) 「食べ物」

「ご飯・麺」「肉」「魚介」「野菜」「果物」「スイーツ」「その他」に分類され、23作品であった。「ご飯・麺」は14作品に見られ、15枚の切り抜きが貼られている作品もあった。「肉」は7作品に見られ18枚の切り抜きを1作品に貼っているものも見られた。「スイーツ」を1作品に19枚貼っている作品もあった。

6) 「建物・室内装飾」

「室内装飾」「建物」「家具」「トイレ」「お風呂」「玩具」「日用品」「食器・鍋」に分類され、「建物・室内装飾」は18作品であった。

7) その他

「クーポン」を貼り付けている作品は1点、「書き込み」が1点あった。

4 授業への感想

質問紙に書かれた自由記述を質的に分析した。カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを< >、コードを()として、以下にカテゴリーの概要を示す。

1) 「コラージュを行ってみて、どう感じたか。」との質問に対して、自由記述を質的に分析した結果より、90 コード、14 サブカテゴリーが抽出された。そこからさらに、【作品について】【自己を見つめること】【他者を見つめること】の3つのカテゴリーが抽出された。これらをコラージュ体験による理解とした。

①【作品について】は、<作品のテーマ><仕上がり><作業><切り抜き><レイアウト>の5つのサブカテゴリーからなる。コラージュを作成する段階での内容であることから、【作品について】とした。

②【自己を見つめること】は、<感情表現><認知><発見><表現>の4つのサブカテゴリーからなる。自己の内面への気づき、表出などから、【自己を見つめること】とした。

③【他者を見つめること】は、<感情><気づき><コミュニケーション><発見>の4つのサブカテゴリーからなる。他者との関わりについてであることから、【他者を見つめること】とした。

2) 「授業の感想」について、自由記述を質的に分析した結果より、73 コード、9 サブカテゴリーが抽出された。そこからさらに、【コラージュの効果】【自己理解】【他者理解】の3つのカテゴリーが抽出された。これらをコラージュ作成による理解とした。

①【コラージュの効果】は、<感情の表出><作業の効果><相談ツールとしての活用>の3つのサブカテゴリーからなる。活動をしたことによる効果について含まれているため、【コラージュの効果】とした。

②【自己理解】は、<新たな気づき><再確認><自分への気づき>の3つのサブカテゴリーからなる。自分自身への気づきが含まれたため、【自己理解】とした。

③【他者理解】は、<新たな気づき><関わりへの気づき><共感的理解>の3つのサブカテゴリーからなる。他者との関わりからの気づきが含まれたため、【他者理解】とした。

VI 考察

1 学生の感情の変化について

(1) 授業開始時の感情

感情の変化についてとして、88.6%の学生が授業前より、授業後の気分が高揚していた。多くの学生は、コラージュ作成に対し興味を示して「わくわく」「楽しみ」な感情を表現したり、「もやもやしてる」「悶々としてる」気分を表現したりする学生いた。授業後は「変わらない」学生もいたが多くの学生は、「スッキリした」「楽しかった」と表現していた。これらのことは、作業をすることで多くの学生の気持ちが上昇していることが分かる。唯一気持ちが下降していた学生1名は、作業後、「うまくできなくて少し悲しくなっている気持ち。自分の作品を他者がどう見るのか気になってしまった。」と記述していた。

これらのことから、コラージュ作成は多くの場合、肯定的に気分の変容が見られ、リラックスし

て思いを吐き出すツールとして効果的であることが分かる。

2 コラージュ作品の形式

1) 杉浦 (1994) の研究を参考にすると、切片数は若干多めの平均値となった。「時間です。」と指示した際、「もう少し時間が欲しい。」との返事が多かったため、作業時間を10分程度延長した影響かと思われる。開始時、取りかかりに少々時間がかかっていたように見えたため、延長したことにより、大半の学生は、切片数が増えた結果となったのだろう。

2) 重ね貼りについて特徴的な作品は、女性の体に男性的な顔を重ねて貼っていた (図2)。「人生で迷っている自分がそのまま作品になった感じ。」とコメントしている。



図2 女性の体に男性的な顔を重ね貼りした作品



図3 横転貼りが見られる作品

3) 余白が全くない作品はなかった。しかし「空白が多いように感じた。」「空白が目立つ散らばった感じで終わってしまった。」「角や端の方に寄ってしまう。」「すきまがさみしい。」など、作成して、「物足りなさ」を感じていた。「もっと全体を埋めたかったけれど、できなかった。」と出来上がった物を見て、落ち込んでいた学生もあった。エネルギーがたくさんある青年期の学生には、紙一杯に詰め込みたい思いがあるのだろう。

4) 「横転することで作品全体が、茶目っ気たっぷりになる感じがする。」と青木ら¹⁰⁾も述べている。質問紙にも、「意外と適当に貼っていてもいい感じに見える。」(図3)とコメントしていた。



図4 台紙を縦に使った作品



図5 特徴のある切り抜きの作品

5) 台紙の方向は、ほとんどが横向きで、縦に使用した作品について、杉浦 (1994) は「メッセー

ジ性の強いポスターは縦を用いられる。現実から距離をおきたいという欲求の表現と見ることもできる¹¹⁾。」と指摘している。「結婚願望と食欲のかたまりを表す作品になったようにみえます。」と記述のあるこの作品(図4)は、ウェディングドレスを着た女性と後ろ姿の男性、食べ物の切り抜きと、右下にある赤い建物がとても印象的である。未来の理想像を表した作品のようだ。

6) 切り抜き方について、学生の作品は特徴的である。四角くざっくり切っている物よりも、「物の形」や「ハートの形」(図5)に切り抜きしている作品が多くあった。小さな丸を沢山切り抜いて、重ねて貼っている作品もあった。女子学生の手先の器用さが感じられる。

7) 貼り方などの表現特徴として、「文字」にメッセージ性が感じられる物と、そうでないものがあった。「君が好き。」「結果重視!!本気痩身」(図6)などは、自分へのメッセージと感じられる。食べたい本音と痩せたい本音が交互する気持ちの中で、文字で表現する手段の一つでもあろう。

色彩の色相としては、暖かい色彩、明るい色合いが多く見られた。クリスマスカラー(図7)や、成人式の振り袖の色合いからも明るい印象を受ける。使用される色彩色の種類も多く見られ、女子学生の特徴的な様子が見られる。



図6 人・文字の切り抜きを使用した作品



図7 暖色系の色彩の作品

3 コラージュ作品の内容について

1) 「人間・動物」では、等身大の女性の切り抜きが多く見られた。自分の理想とする姿や、ありたい姿を切り抜いて、貼られているようだ。「人をたくさんみつけることができました」(図8)と理想像が膨らんでいる様子がみられる。また、男性の顔をたくさん貼っていたものは「欲のままに切って貼ってスッキリした」とコメントしている。あこがれの男性タレントと距離を近くしたい思いもあるのだろう。(図6)



図8 人の切り抜きを使用した作品

2) 「自然風景」では、大きく紙面を占めている物より、小物的に切り抜きを使用している作品が多く見られた。その中で比較的大きな切り抜きは、(図9)である。「行うまでは体が疲れていたり、少しだるかったけれど、(中略)～元気になれた。」と感想を書いている。自然に癒しを求めている気持ちの表れだろうか。小さな花を散りばめ子どもの切り抜きを貼っている作品(図10)は、とてもかわいらしい印象に見える。「ユング派では花は女

性を表すことがある。」¹²⁾ ことから、母性愛的な印象にも見える。



図9 自然の切り抜きを使用した作品



図10 自然（植物）の切り抜きを使用した作品

3) 「乗り物」については、杉浦（1994）の研究で、小・中学生の女子は男子と比較すると車の出現率が低い結果が出ている。学生の作品からも、車の出現は1作品のみであり、他は汽車、気球それぞれ1作品であった。「乗り物は自己のエネルギーの流れと解釈する。」¹³⁾ とあり、高齢者に出現率が高い結果が出ていたが、女子学生の出現率は低い傾向にあった。

4) 「服・装飾品」としての結果は杉浦（1994）の研究ではみられず、「物体」として分類されていたが、特徴的であったため分析の項目としてあげた。「衣服の反応はまれであり、重要であるとされている。また、それは、人の注目を集めようとする仕草の表れのことである。」「ユング派では衣服はその人のペルソナの一つであるとされている。」¹⁴⁾ とあった。寒色系のイメージに見えるきちんと畳まれた服や、規則的に並んだ服を沢山貼り付けた作品（図11）である。服で装いたい思いの表れだろうか。「普段自分の心の中をあまり表出する方ではないので、すっきりした。」と記述している。また、対照的に女性の切り抜きと共に、赤系の服や下着を貼り付けた作品（図12）があった。「自分には足りないものを、雑誌の中から選んでみつけることができたような気がします。」と記述があった。自分の理想を紙面一杯に埋め尽くした感じである。



図11 衣服の切り抜きを使用した作品



図12 衣服の切り抜きを使用した作品

5) 「食べ物」は女性に多く出現すると杉浦（1994）の研究でも結果が出ていた。全体的に暖色系にまとまっている作品が多い中で、1作品に18枚の肉の切り抜きが貼られているこの作品は、「肉」の赤がとても強烈な印象に残った（図13）。右下の女性の切り抜きが自己だろうか。さらに、スイーツを紙面一杯に貼っている作品（図14）もある。ソフトクリームやタルト、ケーキなどのデザートが並んでいる。こちらからは、ふんわりまったりとした柔らかい食感、甘い香り、優しい気持ち

の印象が受けとれる。「食べ物の出現は口唇期の問題」「性的なものとの関連を無視することはできない。」「生命力、心的エネルギーを補給するものとして欠かせないものであり、根源的なものであるといえよう」¹⁵⁾と述べている。



図13 食べ物の切り抜きを使用した作品



図14 食べ物の切り抜きを使用した作品

6) 「建物・室内装飾」の切り抜きで特徴的な作品(図15)である。女性の姿を中心に、ネイル、食べ物と共に、室内の切り抜き、家の切り抜きを周りに貼り付けている。右上には小さく家族の切り抜きも貼られている。未来の家族像と家庭だろうか。「楽しい生活」というテーマで家の写真や料理の写真を使った。」と作品について述べている。杉浦(1994)の研究でも、「自分の部屋はイコール自分であり、自分の城(領域)を守るなどの意識が高まる時期と考えられる。高校生では男子、女子を問わず自分の好みのインテリアを楽しみながら貼っている印象が見うけられた。」¹⁶⁾とある。建造物が自分の意見や現実的な目的を達成しようとする進取の気性を反映する¹⁷⁾という見方もあるらしい。この作品からは、理想の「自分の城」を作品に表現した感じを受ける。さらに、作品(図16)では、「トイレに行きたい、長野に帰りたいという気持ちは反映できたと思う。」とコメントしていた。右中ほどからソファに落ち、右下から中央へジャンプをしているように貼られたウサギがある。また、中央部に長野県の切り抜きがある。ウサギは自分であり、ジャンプして長野に帰りたい思いを表現したのだろう。また、規則的に貼られたクーポン、中央下部にトイレが貼ってある。落ち着かない不安定な気分を規則的に貼り付ける作業をすることで、安定を求めたのだろうか。



図15 建物・室内装飾の切り抜きを使用した作品



図16 室内装飾の切り抜きを使用した作品

4 授業への感想

1) 「コラージュ体験による理解」について

① コラージュ作成時に感じたことの記述を「コラージュ体験による理解」とした。コラージュの

【作品について】では、(楽しい生活) や (色合い) など<作品のテーマ>を振り返ったり、<仕上がり>について (印象) を受け止めたり (気づき) があったりした。また、<作業>や<切り抜き>がとても (楽しかった) と記述され、作成上の切る、貼る、選ぶ、どの作業もとても楽しい活動だったと記述されていた。

- ② 【自己を見つめること】として、<感情表現>の言葉があり、(楽しかった) (すっきり) (嬉しい) など肯定的な感情や、(寂しい) (滅入る) など否定的な感情が表出されていた。(自分の足りないところを貼った) (角や端に寄ってしまった) と<自己認知>がされたり、(普段と違う自分) に気づいたりするなど<自己発見>したことも分かった。さらに、(今の感情) を表現していること、(おなかが空いた) 思いを表現した作品になっていることに気づいていた。
- ③ 【他者を見つめること】は、<コミュニケーション>が (楽しい) (よかった) と (会話のつながり) や (会話がはずむ) 他者との間での楽しさを感じていた。また、作品から (友達らしさ) の (個性) を感じ、<面白い>と思い、自分の作品と比べて<気づき>があったようだ。

2) 「コラージュ作成による理解」について

- ① 【コラージュの効果】として、コラージュは<感情の表出>をするためのツールとして効果的であるとのコメントが多く見られた。特に、(楽しかった) の感想が多くあった。また心の一部を見ることができるなど (発見) している。さらに、<作業の効果>として、(気分転換) ができ、(緊張緩和) され、心理状態が (表現) されるなどがあげられた。また、会話を膨らませる手段として (すてき) や、ふれあいに (生かす) など (今後の活用) に (効果的) であり、<相談ツールとして活用>する (手段) として有効であることを感じていたようだった。
- ② 【自己への理解】として、自己への<新たな気づき>が見られた。コラージュの作業が (不安) であったり、(人柄が出る) と感じたり、よい体験だと (よかった) 感想をもっていた。また、作業をしながら (懐かしい気持ち) や、(内面と向き合う作業) は、自分の好きを確立する (よいツール) であると感じていた。(今の自分) が表れる、(心が軽くなった) と<自分への気づき>があったことを感じ、今後 (自他への気づき) を持てるようになりたいとの記述もあった。
- ③ 【他者への理解】として、(驚いた) (面白い) (個性が出る) など、他者に対しての<新たな気づき>があったことが分かる。<関わりの気づき>として、(作品の分析) ができるようになりたいと思っていたり、友人と一緒に作成したことを (楽しい) と感じていたり、他者との関わりも効果的であることが伺える。特に他者への理解で多くあったのは、<共感的理解>として他者の作品から内面を垣間見られることを (楽しかった) と感じていたり、共に作業を行ったことを (面白い) と感じていたりしたことも分かった。相手の (好きな物) が分かると会話がはずむなど、カウンセリングのヒントになる内容についてのコメントも見られた。

コラージュの形式や内容について述べると、特に青年期の女性に多く見られる傾向として、切片数の平均は24.1枚、はみ出しはみられず、台紙は横に使用する者が多く、切り抜きは四角より物の形や、丸、ハートなど多様な形に切り抜かれていた。主な色彩は赤・ピンクなどであり、暖色系が多く、色彩数も多く、明るく暖かい感じがある。人間として成人の女性出現、食べ物、室内装飾や衣服、装飾品など嗜好品が多く選択されている。余白が少ない作品が多いことも特徴的であろう。

Ⅶ まとめ

本研究において、養護教諭養成課程の学生におけるコラージュ作成の体験から、その感想や思いを知ることができた。各自、自分の気に入った雑誌等から切り抜きをし、作成したことで、個人の興味、嗜好がはっきり見られる結果となった。コラージュの形式や内容についても、青年期の女性の特徴的な傾向も知ることができた。

『思春期青年期ほど数年の間に、多種・多次元の成長課題に立ち向かわなければならず、その課題を自分自身で処理・解決をしなければならない時期は他にないだろう。その成長していく過程を、「選んで切る」という破壊のプロセスと「レイアウトして貼る」という再構築のプロセスを繰り返しながら、作品を制作することで表現している。この表現方法は、思春期青年期にとって大きな意味のある作業だと考える。』と、青木ら¹⁸⁾も述べている。多くの学生が「楽しかった」とコメントしていたのは、グループで作業を行ったことで、互いの思いを話し合い、聞き合いながらリラックスする体験ができたからであり、効果的であったのだろう。

作品を互いに鑑賞しながら、他者への新たな気づきがあったり、関わる事での気づきや共感的な理解があったりと、他者を多面的に理解することの効用にも気づくことができていた。

健康相談ツールとして、効果的であることに気づいた学生も多くあった。「自己像は制作者と同じ属性であるが、動物や小物、食べ物である場合もある。」¹⁹⁾ことから、作品の中で自己や他者を表現しているか、各自振り返ることができれば、さらに深く作品を読み取ることができたであろう。

筆者も作品からのメッセージの読み取りより、作業をしながら会話を進めるためのツールとして使用していることが多かったため、分析については読み取りが浅いと思われる。「相手を知るためには、間接的なものから察する必要もある。」との学生の感想にも気づかされた。援助者として、自己を知り他者を理解し受け入れられるように今後も研鑽を積みたい。

注

- 1) 森田光子 養護教諭の健康相談ハンドブック, 10, 東山書房, 2010
- 2) 保健体育審議会: 障害にわたる健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について (答申) 9, 1997
- 3) 三木とみ子・徳山美智子: 健康相談活動の理論と実際, 235, ぎょうせい, 2007
- 4) 杉浦京子「コラージュ療法: 基礎的研究と実際」3, 川島書店, 1994.
- 5) 吉村真理子: マガジン・ピクチャー・コラージュの構成的グループエンカウンターとしての活用, 千葉敬愛短期大学紀要(35), 39-47, 2013-03
- 6) 塩田留美・野村純 他: 養護教諭の非言語メンタルケア技法への心理・生理的フィードバックの試み, 千葉大学教育学部研究紀要 56 巻, 2008, 163-167
- 7) 大竹直子・諸富祥彦: 自己表現ワークシート, 図書文化, 2005

- 8) 前掲 4) 16-17
- 9) 青木いづみ・金丸隆太：高校生のコラージュ作品の形式分析と内容分析，茨城大学教育実践研究 27, 2008, 181-195
- 10) 前掲 9) 187
- 11) 前掲 4) 87
- 12) 前掲 4) 109
- 13) 前掲 4) 111
- 14) 前掲 4) 112
- 15) 前掲 4) 111
- 16) 前掲 4) 110
- 17) 前掲 4) 110
- 18) 前掲 9) 194
- 19) 鶴木恵子：コラージュ作品における自己像・他者像とパーソナリティの関連—統一素材を用いた検討—，十文字学園女子大学仁賢生活学部紀要第8巻，2010, 147-155